

救い

karinomaki

苦しみ

私の一生は、母親のために台無しになりました。しかし、そこから救われ、母親を許せるように強くしてくれた人がいました。

玄関に転がされる赤ちゃん

母は、泣いている赤ちゃんの私を玄関に転がしておくような人でした。お金はくれますが、私は母親の愛を知りません。しかし、ある、心の醜い人を例えに出します。その人は、私の知っているある奥さんで、子供に生きがいを感じていますが、旦那さんを愛していません。ただ、養ってもらうために利用しているだけです。そんな人から比べたら、母親を擁護したくなります。母は、最終的に私という娘よりも、恋人を選びましたが、その人を確かに愛しています。男の人を尊敬し、決してお金を稼ぐ道具にしていません。

愛されない苦しみ

しかし、母親に愛されず、いじめられるというのは、子供にとっていちばんの不幸です。私は、それでも、母を愛していました。しかし、精神病を発症して入院した私に母は、「一生入っていてほしい」と言いました。そして、私を気持ち悪がり、「悪魔」と言いました。

そんな私の救世主となったのが、主治医の先生でした。

怒り

人間は腹が立ったら、怒るべきです。しかし、母の怒りは、私にとってははじめと同じでした。私は、精神病になった原因を全て母親のせいだという趣旨の手紙を先生に書きました。

しかし、先生はある日、激しく怒りました。そして言いました。

「君の病気の原因は、全てを周りのせいにしたことだ。」

私はそれを聞いて三日くらいずっと泣いていたのですが、母を嫌ったように、先生を嫌いにはなりません。先生の怒りの後ろに、深い情熱を見たのです。それは、「正しく強く自分を鍛える」という生き方だと思いました。

子供を育てるためだけに、愛の冷めた夫をばかにしながらしがみついている主婦、そして、自分を正しいと思いたくて、母親を憎むことを支えにしている私・・・あまりかわらないなと思いました。

ゆがんだ正しさをどれだけ守っても、先生には見透かされてしまう。私は先生は立派だと思いました。

守れない

しかし、人を攻撃する私の、急に目覚めた悪さはなおりませんでした。実は、この入院まで、私は人を攻撃したことがほとんどなかったのです。

母や、周りに虐げられて、虐げられて、ついに爆発した末の入院だったのです。私の母への憎しみ、いろんなゆがんだ人への制裁はとどまらず、私はついに先生に部屋に隔離されました。先生の言うことがついに守れないまま・・・。

先生ごめんなさい

私の怒りの矛先はついに先生にまで向かいました。何回先生から逃げようとしたかわからず、何回ひどいことを言ったかわかりません。

しかし、やりあっているうちに、先生が大好きになっていました。先生は、私を常に、どんなときも、「よくなってほしい」と思ってくれていることがわかったから・・・。

私は、母を許すことはもうないのかもしれませんが。しかし、母を愛そうと思いました。どんなに憎たらしいことを言っても、私は先生にとって大事な患者さんだった。それを思うと、私の今までの、母から受けた傷は、先生ごめんなさい、という気持ちとともに消えていくのです。

私が先生からもらったものは、人を許すという、いちばん大切な、この世の要、「救い」という言葉でした。